

● 状況に応じた避難をしよう

» ため池決壊による浸水の深さを想定した避難の流れ

【マップを確認】

【浸水の深さ】

【判断】

【どこへ】

【どうやって】

- 想定される浸水の深さによって、避難方法は異なります。

●裏面の地図で、自分の家で想定される浸水の深さを確認し、避難の方法を考えましょう。

3m 以上の浸水

- 2階以上が浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊する危険がある

必ず

【浸水しない場所】
(避難場所、道路、空き地、高台など)

時間と安全な避難経路が確保されれば



0.5~3m 未満の浸水

- 床上浸水
- 1階以上が浸水
- 強い水流の中を歩くことは危険

少なくとも

【自宅の 2 階 危険のない近くの高い建物】

- 自宅や近くの丈夫な建物の2階以上にとどまる
- 垂直避難

- 水、食べ物、簡易トイレ、懐中電灯、ラジオ、貴重品などを2階に持って上がる
- 近所のお年寄りも一緒に

0.5m 未満の浸水

- 床下浸水
- 大人のひざ下程度
- 浸水の深さがひざ上になると、歩行は危険

必ず

【自宅にとどまる】

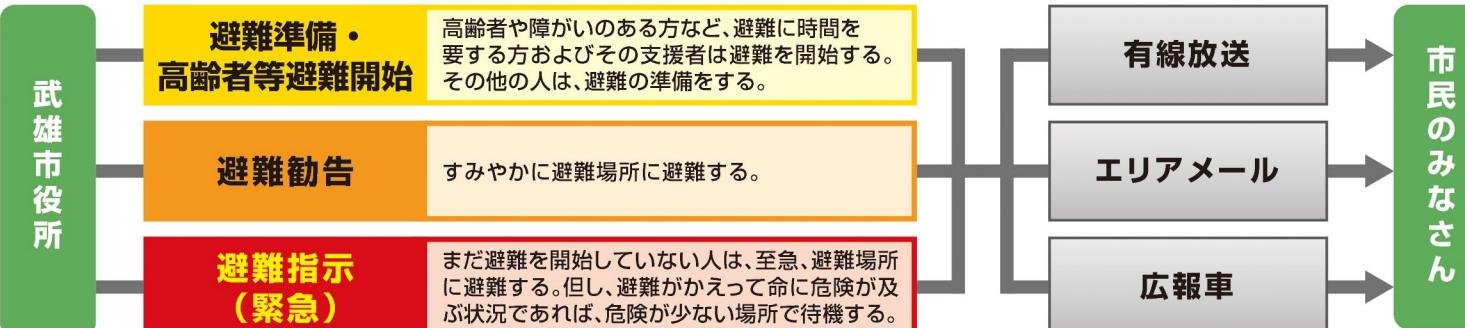
- むやみな移動はかえって危険
- 屋内安全確保

- こんなときは避難しましょう
 - ・大規模な地震が発生したら(2~3日後までは警戒が必要)
 - ・集中豪雨、長雨のとき
 - ・避難勧告、避難指示(緊急)が発令されたら

● 避難に備え早めの情報収集を行いましょう。

情報源	情報の種類	ウェブサイト アドレス
たけおポータル	県内の防災関連情報や関連サイトなど	http://www.city.takeo.lg.jp/bosai/
防災・減災さが	県内の防災関連情報や関連サイトなど	http://www.pref.saga.lg.jp/bousai/
リアルタイム川の防災情報	全国の雨量情報や水防警報など	https://www.river.go.jp/
気象庁	全国の気象情報や地震情報など	https://www.jma.go.jp/jma/index.html

● 市役所から呼びかける避難情報



【ため池ハザードマップに関するご意見・ご質問は】
武雄市役所 TEL : 0954-23-9335 (農林課)

〒843-8639 佐賀県武雄市武雄町大字昭和 12 番地 10
ホームページ <http://www.city.takeo.lg.jp/>



武雄市ため池ハザードマップ

焼米・永谷

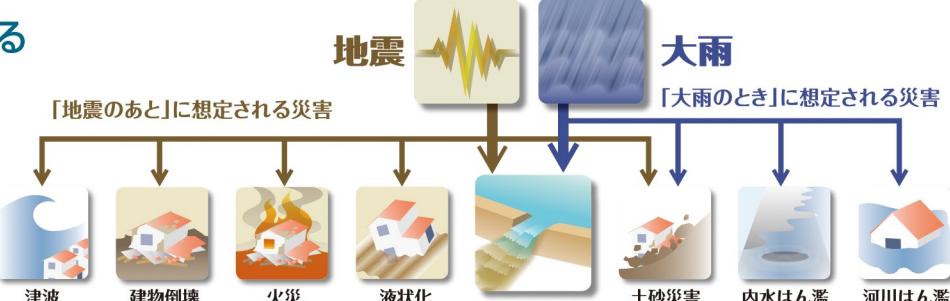
作成:平成31年3月
(2019年)

この「ため池ハザードマップ」は、晴天時の地震により、焼米と永谷が連動して決壊した場合に想定される浸水区域や水深、および避難に役立つ情報をとりまとめたものです。ため池が決壊するおそれのある場合または決壊した場合に、迅速かつ安全に避難するために役立ててください。



④ ため池決壊と同時に発生するおそれがある災害

ため池が決壊するおそれがある状況では、周辺で様々な災害が発生していることが考えられます。
ため池決壊と同時に注意が必要です。



● ため池ハザードマップの活用方法（急な事態へ備えましょう）

① 想定される浸水区域や深さなどをチェックしましょう。

- ・浸水の深さや、はん濫水の到達時間に応じた避難を考えましょう。
- ・災害時の様々な事態をイメージしましょう。

② 避難場所を決めておきましょう。

- ・浸水の深さや、はん濫水の到達時間より、どこへ避難するかを決めておきましょう。
- ・浸水深が3mを超える区域は、緊急避難できる身近な場所も探しておきましょう。
- ・家族の連絡先を確認しておきましょう。

⑤ 防災情報の入手先を確認しておきましょう。

- ・ため池の堤防が被災すると、短時間で決壊に至る可能性がありますので、日頃から防災情報がどこで入手できるかを確認しておきましょう。

⑥ 市が公表している他のハザードマップもご覧ください。

- ・武雄市ハザードマップには、大雨に伴う河川のはん濫や、その避難に関する情報を記載しています。このマップと併せて活用し、急な事態へ備えましょう。

武雄市ため池ハザードマップ 焼米・永谷

【はん濫シミュレーションの条件】

- ①想定される最大規模のはん濫を想定しています。
- ②決壊時のため池の貯水量は満水とし、地震によって堤防が決壊し、全貯水量が流れ出ると仮定しています。
- ③ため池決壊の進行速度は、堤防の被災要因によって様々なため、流れ出す水の勢いが強くなる場合を想定し、瞬時に決壊部の堤防がなくなると仮定しています。
- ④決壊を想定した位置は、堤高が最も高い位置と仮定しています。
- ⑤数値シミュレーションは、地形を5mメッシュで表したモデルを用いて、はん濫流の動きを計算しています。

【ハザードマップ活用の留意点】

東日本大震災の津波被害などでは、ハザードマップで示した浸水想定結果のイメージが固定化され、状況に応じた避難判断の阻害になったケースがありました。

浸水想定結果は、ある一つの仮定条件に基づく結果です。また、詳細な地形などを反映できていない場合もあり、浸水想定区域外での浸水や、想定結果以上の浸水深となる可能性もあります。

このため、ハザードマップは多様な災害をイメージする基礎情報であることに留意し、発災時は状況に応じた柔軟な避難行動を心がけてください。

